

職場紹介

田川支部 田川県土整備事務所 有田滉佑

1. はじめに

私は今年度、福岡県の新規採用職員として田川県土整備事務所の河川砂防課河川係に配属されました。まだまだ土地柄や仕事のやり方で分からないこともたくさんありますが、私なりに4月から住み始めた田川市について、そして従事している業務について紹介したいと思います。

2. 田川市について

田川市は、福岡県の北東部に位置し、市の南には英彦山、北に福智連山、東には香春岳を望む三方山で囲まれた田川盆地にある筑豊地域の中核都市です。

明治末から、三井を中心とした炭鉱の町として繁栄しました。1900年に三井田川鉱業所が設立されると、仕事を求めて全国から移住者が訪れ、筑豊最大の炭都として1950年代には人口10万人を超えていました。

しかし、1960年代のエネルギー革命でエネルギー源が石炭から石油へ転換すると、わずか10年足らずで田川市内の炭鉱は全て閉山しました。これにより人口は全盛期の半分程度まで減少しました。

現在は産業構造の転換に向けた取り組みが行われています。工業では、北九州工業地帯に近いという立地の良さを活かし、工業団地として企業の誘致が進められています。医療・福祉では、1992年に医療・福祉の人材の育成を目指し、伊田地区に福岡県立大学が設立されました。また、田川市石炭・歴史博物館が所蔵している山本作兵衛の炭鉱記録画がユネスコ世界記憶遺産に登録され、観光客も増えています。炭鉱住宅や失業の問題も残っており、未だ厳しい状況が続いているものの、復興・自立に向けた努力が続けられています。

3. 私が従事している業務

私が所属している河川砂防課河川係は、係長の他、係員2名で河川改修や河川維持事業を実施していますが、私は現在、大きく二つの業務を担当しています。

一つ目は、河川の維持管理のための除草工事です。除草だけでなく護岸工事などもやりたいのですが、降水量の多い出水期(6月～10月頃)は決壊、氾濫の危険性を防ぐため改修工事等は実施していません。

しかし、新規採用職員の私にとって除草工事は、短い工期で設計内容もシンプルであり本数も多いため、工事の一連の流れや手順をつかむのにとっても勉強になります。工事中も、現場周辺の住民の要望・苦情の対応、そして除草範囲や施工方法について請負業者の方と立会することもあり、土木行政を担う者として必要なスキルが身に付けられると考えています。除草工事に関しては20本も担当させていただきました。

二つ目は、災害復旧に関する業務です。H29年7月の朝倉を中心とした記録的な豪雨により、河川、道路ともに甚大な被害を受けました。田川管内でも添田町の彦山川、深倉川、国道500号及び県道八女香春線で多くの被害がありました。崩壊した護岸や道路の陥没、そして大量の土砂によって埋もれてしまった田畑を初めて目の当たりにして、改めて自然の驚異を感じました。

災害発生から河川砂防課内の雰囲気は一変し、常にピリピリとした緊張状態が続いていましたが、復旧に向けて地元関係者や請負業者と協議する上司の方々の姿を見て、とても勉強になりました。

災害復旧は、通常の工事よりも緊急性が求められ、県財政にとって突発的で多額の出費となることから、県は被災箇所の復旧工法や復旧費を積算し、国に申請することで復旧費を負担してもらいます。これを災害査定というのですが、この一連の流れを初めて知りました。私はこの査定を受けるために必要な資料作成や設計書の数量チェックを主に担当しました。まだまだ勉強不足であり役にたたず、上司に大変なご迷惑をおかけしてしまいましたが、自分にとっては貴重な経験ができたと考えています。

4. おわりに

今後は災害復旧工事を担当させていただく予定です。今まで担当したことのない大きな工事ということもあって、期待や不安が入り混じっておりますが、災害復旧に携われるということに誇りを持って頑張っていくつもりです。管内の添田町はもとより、朝倉市、東峰村などの住民の方々が少しでも早く被災前の生活に戻れるよう、お祈りするとともに、私も被災地の復旧・復興に微力ながらお力添えできればと考えております。また、この貴重な経験を活かし、県職員として、そして土木技術者としてより一層成長していければと思います。